

邑楽館林圏域 OJT標準モデル②

相談支援専門員は、振り返りの職種

邑楽館林圏域 OJT標準モデル。

～ 本人の暮らしに立ち返り、次の支援へ。 ～

振り返ることは、後ろを見ることではありません。
本人の暮らしに、もう一度立ち返ることです。

目次

- | | | |
|----|-----------|-------------------------|
| 01 | 前回の振り返り | OJT①から実践までを振り返る |
| 02 | 社会資源調査の共有 | 地域を知って見えたことを共有する |
| 03 | 計画を振り返る | 計画作成を通して気づいたこと |
| 04 | 課題添削 | アセスメント・ニーズ整理・計画と一緒に振り返る |
| 05 | 見立てを深める | ストレングスの視点と二次アセスメント |
| 06 | 支援を振り返る | サービス担当者会議・個別支援計画・モニタリング |
| 07 | 地域へつなげる | 地域課題と協議会 |
| 08 | 今後の学び | 実践を次につなげる |
| 09 | まとめ | 支援は、地域へつながり続ける。 |

OJT②の位置づけ

実践を振り返り、次の実践へつなげる時間です。

- 受講者は、OJT①を終えた後、地域に戻り、社会資源調査やサービス等利用計画の作成など、実際の相談支援を経験してきました。ここでは、新しい知識を学び直すではありません。実践を振り返り、課題添削を通して新たな視点を得ながら、相談支援専門員としての見立てを深めていきます。

OJT②で大切にしたいこと

- **実践を振り返る 新たな視点到気づく 必要に応じてアセスメントへ戻る 次の実践につなげる**

**実践を振り返ることから、次の支援へ。
押して、必要に応じて、もう一度アセスメントへ戻る。**

このOJTで大切にしたいこと

相談支援専門員としての視点を深める。

相談支援専門員として必要な知識や制度は、研修や実践を通して学び続けていきます。
しかし、相談支援専門員としての視点は、一度身につけば終わるものではありません。

- 実践を振り返る
- 本人の暮らしに立ち返る
- 新たな視点到気づく
- 見立てを深める
- 次の実践へつなげる

受講生も、主任相談支援専門員も、振り返りながらともに学び、ともに育つ。

OJT②の流れ

実践を振り返り、次の支援へつなげます。

① 前回の振り返り

OJT①から実践までを振り返り、学びや悩みを共有します。

② 実践を振り返る

社会資源調査や計画作成を通して見えてきたことを整理します。

③ 見立てを深める

添削を通して、新たな視点や支援の方向性を確認します。

④ 本人の暮らしに立ち返る

本人が見えなくなったときは、もう一度アセスメントへ戻ります。

⑤ 次の実践へつなげる

今日の気づきを、これからの相談支援につなげていきます。

今日の進め方

2時間の中で、実践を振り返り、次の支援につなげます。

前半：経験を持ち寄る

- 前回の振り返り
- 社会資源調査の共有
- 計画作成を通して気づいたこと
- 見立てを共有する

後半：一緒に考える

- 計画様式の確認
- サービス担当者会議を振り返る
- モニタリングを振り返る
- 地域課題を共有する
- 次の実践につなげる

評価ではなく、考え方を一緒に振り返る時間です。

前回の振り返り

OJT①から今日までの実践を振り返ります。

OJT①を終え、地域に戻ってから、それぞれの実践の中で、さまざまな気づきや悩みがあったと思います。

まずは、その歩みを振り返ることから始めます。

振り返りの視点

- OJT①で学んだことを実践できましたか。
- 実践してみて、難しかったことは何ですか。
- 思いどおりにいかなかったことはありましたか。
- 実践を通して、新たに気づいたことはありましたか。
- 本人が一番笑顔だった場面はありましたか。

振り返ることは、自分を評価することではありません。
次の実践につながる気づきを見つけることです。

社会資源調査の共有

地域で感じたことを共有します。

社会資源調査を通して、相談支援専門員として地域を見つめる中で、どのような気づきがありましたか。
一人ひとりの気づきを持ち寄ることで、地域への理解を深めていきます。

振り返りの視点

- 新たに知ることができた社会資源はありましたか。
- 地域の強みは何だと感じましたか。
- 地域に不足しているものはありましたか。
- 相談支援専門員として、どのようにつながっていきたいと思いましたか。

社会資源を知ること、資源を覚えることではありません。
本人の暮らしを支える地域を知ることです。
地域資源を知ることが目的ではありません。
地域とつながる視点を持つことが目的です。

つながる入口を知る

計画を書いてみて気づいたこと

計画を作成して感じたことを振り返ります。

サービス等利用計画を作成してみて、感じたことや迷ったことはありませんでしたか。実践を通して得た気づきは、これからの相談支援につながる大切な学びです。

振り返りの視点

- 本人の思いを計画に表現できましたか。
- 計画を作成する中で迷ったことはありませんでしたか。
- 本人の願いと支援者の考えが一致していましたか。
- もう一度確認したいことはありませんか。

**計画は完成が目的ではありません。
本人の暮らしを理解し、支援の方向性を
共有するためのものです。**

計画の役割を振り返る

計画は、本人の暮らしを支えるためにあります。

サービス等利用計画は、
サービスを利用するためだけの書類ではありません。
本人や家族、支援者が、
これからの暮らしの方向性を共有するためのものです。
計画を振り返ることで、
相談支援専門員としての見立ても振り返ることができます。

振り返りの視点

- ・ 計画は本人の願いにつながっていましたか。
- ・ 支援の方向性を関係者と共有できる内容になっていましたか。
- ・ 本人らしい暮らしがイメージできる計画になっていましたか。
- ・ 今、計画を見直すとしたら、どこを修正したいと思いますか。

計画は完成させるものではなく、
本人の暮らしに合わせて育てていくものです。
計画は、本人の未来を決めるものではありません。
本人の歩みを支えるものです。

ストレングスモデルを振り返る

本人の「できること」「持っている力」は見ていましたか。

支援を考えるとき、私たちは困りごとに目が向きやすくなります。
しかし、本人には、これまでの経験や得意なこと、支えてくれる人や地域とのつながりなど、すでに多くの力があります。
計画を振り返りながら、本人の強みや可能性が見えていたかを確認してみましょう。

振り返りの視点

- 本人の強みが計画に表現されていましたか。
- 「できないこと」だけに目が向いていませんでしたか。
- 家族や地域の力も含めて考えられていましたか。
- 本人らしい暮らしにつながる視点がありましたか。

ストレングスは、支援者が見つけるものではありません。
本人の暮らしの中にある力を、ともに見つけていく視点です。
強みとはできることではありません。可能性です。

計画と一緒に振り返る

様式ではなく、見立てを振り返ります。

サービス等利用計画は、
相談支援専門員が考えた計画ではなく、
本人の暮らしや願いを支援の方向性として整理したものです。
課題添削では、
計画の書き方を評価するのではなく、
その見立てや考え方を一緒に振り返ります。

振り返りの視点

- 本人の願いが計画に反映されていましたか。
- アセスメントとのつながりが見えていましたか。
- 支援の方向性に無理はありませんでしたか。
- 今、見直すとしたら何を確認したいですか。

添削は、評価ではありません。
新たな視点に気づき、見立てを深める時間です。

サービス担当者会議を振り返る

本人を中心とした話し合いになっていましたか。

サービス担当者会議は、
サービスを定めるためだけの会議ではありません。
本人や家族の思いを共有し、
支援の方向性を確認する大切な時間です。
実際に参加してみて感じたことを振り返りましょう。

振り返りの視点

- 本人や家族の思いを確認できましたか。
- 支援者同士で共通理解を持つことができましたか。
- 本人の願いを中心に話し合うことができましたか。
- 新たな気づきや見立てはありましたか。

サービス担当者会議は、
支援者が話し合う場ではなく、
本人の暮らしを共有する場です。
会議の目的は、支援を決めることではありません。本人の思いを共有することです。

モニタリング

計画は、モニタリングによって育つ。

最初の計画から、本人にぴったり合うことはあまりありません。だからこそ、モニタリングがあります。良い計画は机の上で完成するものではないと思っています。本人の暮らしの中で、モニタリングを重ねながら少しずつ育っていくものです。

本人を知る (アセスメント)



まずは計画を立てる



実践してみる



暮らしを振り返る (モニタリング)



本人の変化に気付く



必要なら アセスメントへ戻る

モニタリングを重ねる



計画が育つ



支援が変わる



本人の力が育つ



必要な支援も変わる



その人らしい暮らしへ

- 必要な支援が少なくなることも、大切な成果です。

個別支援計画との違いを確認する

支援の方向性を共有するために、それぞれの役割を確認します。

サービス等利用計画と個別支援計画は、
どちらも本人の暮らしを支えるための大切な計画です。
それぞれの役割を理解し、
支援の方向性が一つにつながっているかを振り返ります。

振り返り

サービス等利用計画は、
本人の暮らし全体を支えるための方向性を示します。

個別支援計画は、
その方向性をもとに、
各事業所が具体的な支援を実践するための計画です。

確認したい視点

- サービス等利用計画と個別支援計画がつながっていましたか。
- 本人の希望や目標が共有されていたか。
- 役割分担が整理されていたか。
- 支援の方向性に違いはありませんでしたか。

計画は別々に存在するものではなく、本人の暮らしを支える一つの支援につながっています。

地域課題の共有

個別の相談から見えてきた地域課題を共有します。

相談支援を実践する中で、本人や家族の困りごとは、地域の仕組みや社会資源の課題として見えてくることがあります。
一人で抱え込むのではなく、地域で共有し、ともに考えることが大切です。

地域課題とは

- 個人だけでは解決が難しいこと
- 地域全体で考える必要があること
- 関係機関と共有することで改善につながる
- 地域課題は困りごとの集まりではありません。地域が育つ入口です。

振り返りの視点

- 実践の中で困ったことは何でしたか。
- 社会資源が不足していると感じたことはありましたか。
- 他の受講生も同じような課題を感じていましたか。
- 地域全体で考えていく必要があることは何でしょうか。

個別の相談から見えてきた課題は、
地域みんなで考える地域課題になります。

協議会へつなげる

地域課題を、地域づくりへつなげます。

相談支援専門員は、一人で地域課題を解決することはできません。
実践を通して見えてきた地域課題を共有し、関係機関とともに考え、地域づくりにつなげていくことも大切な役割です。

協議会の役割

- 地域課題を共有する
- 関係機関が協働して考える
- 地域の仕組みを育てる
- 地域全体の支援力を高める

振り返りの視点

- 地域課題として共有したいことはありましたか。
- 関係機関と連携することで解決できそうなことはありましたか。
- 協議会で検討することで前に進みそうなことはありましたか。
- 地域づくりにつながる視点はありましたか。

相談支援は、一人で完結する仕事ではありません。
地域とともに考え、地域とともに支えていきます。

今後の学び

OJT②を、これからの実践につなげます。

今日の振り返りや課題添削を通して、新たな気づきや学びがあったと思います。
その気づきを、日々の実践の中で積み重ねていくことが、相談支援専門員としての成長につながります。

これから大切にしたいこと

- 実践を振り返る
- 本人の思いを大切にする
- 必要に応じてアセスメントへ戻る
- 地域とのつながりを大切にする
- 学び続ける姿勢を持つ

今日の学びを、明日からの実践につなげ
ましょう。

おわりに

私たちが大切にしたいこと

- 相談支援専門員は、制度を説明する専門職ではありません。計画を作成する専門職でもありません。支援につなぐ専門職です。
- 今日の振り返りは終わります。でも、相談支援専門員としての振り返りは、ここから始まります。
- 本人の思いに耳を傾け、必要な支援へつなぎ、地域とつながり、その人らしい暮らしを支えていきます。
- 迷ったときは、本人が見えなくなっていないか。立ち止まり、もう一度アセスメントから始めます。

相談支援専門員は、振り返りの専門職です。本人の思いに立ち返り、支援を振り返り、地域を振り返る。振り返ることが、より良い支援につながります。そして、その答えは、いつも相談者の中にあります。 支援とは、つなぐこと。

館林市邑楽郡 4 町障がい者基幹相談支援センターしろっこから

お疲れ様でした。

初任者研修では、計画相談について学びました。

計画の立て方を学ぶことは、とても大切です。

しかし、本当に相談支援専門員を育ててくれるのは、**計画を書いた後**です。

本人の暮らしに寄り添い、モニタリングを重ねる中で、「この計画では足りなかった。」

「ここは違っていた。」そんな大きな気づきが、少しずつ生まれてきます。

計画相談で最も大切なのは、モニタリングです。

モニタリングは、計画どおりに進んでいるかを確認する時間ではありません。

相談支援専門員が、もう一度本人の暮らしに立ち返る営みです。

本人の変化に気づき、計画を見直し、支援を育てていく。

その積み重ねが、相談支援専門員を育てます。

だから、計画を修正することを恐れなくてください。

計画を修正できるということは、**本人の暮らしを見続けている証**です。

そして、その積み重ねが、本人らしい暮らしにつながっていきます。

相談支援専門員として迷ったときは、**もう一度、本人の暮らしに立ち返ってください。**

そこには、きっと次の支援へのヒントがあります。

皆さんが、それぞれの地域で、一人ひとりの暮らしに寄り添いながら歩まれることを心より

願っています。そして、いつでも、しろっこへご連絡ください。

本当に、お疲れ様でした。